

令和8年度 第1回

認知症サポート医・かかりつけ医フォローアップ研修会

～ 認知症医療連携フォーラム in 長岡 ～

「アルツハイマー病の合併病理について」

1 日 時 令和8年10月22日(木) 18:30～19:30 (18:00 から入室可能)

2 開催方法 Zoomによるオンライン開催

3 講 師 新潟大学脳研究所 病理学分野 准教授 清水 宏 氏

4 プログラム

司会・コーディネーター 三島病院認知症疾患医療センター センター長 森田 昌宏 氏

18:30	開会
18:35	講義 「アルツハイマー病の合併病理について」 講師：新潟大学脳研究所 病理学分野 准教授 清水 宏 氏
19:15	質疑・総合討論
19:30	閉会

5 参加申込み

申込締め切り：令和8年10月15日(木)

右記QRコードを読み取り、
新潟県電子申請システムからお申込みください。

https://apply.e-tumo.jp/pref-niigata-u/offer/offerList_detail?tempSeq=34307



6 その他

本研修受講により、「日本医師会生涯教育制度対象講習会」1単位を取得できます。

(カリキュラムコード：29 認知能の障害)

また、「にいがたオレンジドクター」の認定を更新できます。

今回の研修会の趣旨 ～企画された森田先生より～

抗アミロイドベータ(Aβ)抗体薬が実臨床に導入されてから2年半が経過しましたが、投与対象者の選択においてはバイオマーカー検査によるAβ沈着の確認が条件とされており、バイオマーカーを用いたアルツハイマー病の診断は定着しつつあります。その一方でアルツハイマー病の経過にはAβ以外にもさまざまな要因が関与していることも知られてきました。前回の本研修会(R6年9月5日)では新潟大学脳研究所の清水宏先生から「アルツハイマー病の血管性要因について」ご講演いただきました。高齢の認知症患者の剖検脳では脳血管障害はもとより、αシヌクレインやTDP-43など多様な合併病理が認められることが多いそうです。前回の「血管性要因」に引き続き、今回はこれらの合併病理についてお話しいただけるよう清水先生をお願いいたしました。

清水先生は病理学の立場から神経変性疾患の病態研究に取り組んでおられ、本研修会ではこれまで先生に「若年性認知症の臨床と病理」(R3年10月)、「嗜銀顆粒性認知症の病理」(R1年11月)など、CPC(臨床-病理検討会)形式も活用しながら貴重なご講演をいただいております。今回も認知症の診療にあたっておられる先生方のためになるような研修会にしたいと願っています。多くの先生方のご参加をお待ちしています。

司会・コーディネーター 三島病院認知症疾患医療センター 森田昌宏 記

お問い合わせ

長岡地域振興局健康福祉環境部 地域保健課 前山

TEL:0258-33-4931 E-mail:ngt111430@pref.niigata.lg.jp